

ファッション甲子園で

キラリ賞を受賞



惺山高等学校2年
菅野愛奈さん
(海谷地区)

人から求められるような
実力のあるデザイナーになりたい

日本全国の高校生を対象にしたファッションコンテスト、「全国高等学校ファッションデザイン選手権大会（ファッション甲子園）2023」が8月27日（日）に開催されました。第22回の今大会では、応募総数全国97校、1810点から選ばれた35チームのデザイン画が実際の衣装となって登場しました。

今回、山形県代表として選ばれたのが、惺山高等学校2年の菅野愛奈さん（海谷地区）のデザイン画『浮遊』。水中を優雅に自由に浮遊するアカクラゲに魅了され、重力に逆らい、ふわふわとした衣装を作りたいと思いデザインされたもの。また、世界農業遺産候補の『最上紅花』を用いて唯一無二の「日本の赤」に染めあげたこだわりの逸品。『浮遊』は一次選考を通過し、8月27日（日）、衣装製作による最終審査に臨みました。

迎えた最終審査当日。強豪校がひしめき合う今大会、愛奈さんの作品は見事、キラリ賞（大会出場教員が選ぶ1番輝いていた高校に提供する賞）を受賞さ

れ、山形県勢初の受賞という快挙を成し遂げました。

愛奈さんに大会の感想と今後の目標を聞きました

広報——キラリ賞受賞おめでとうございます。率直な気持ちを聞かせてください。

愛奈さん——夏休みの時間を全て衣装の製作にあてて頑張ってきました。周りの方に、自分たちのこれまでの頑張りを認めてもらえて嬉しいです。

広報——今大会で愛奈さんが担当された役割を教えてください。

愛奈さん——衣装のデザインや製作、衣装を着てランウェイを歩くモデルも担当しました。

広報——工夫したところや苦労したところを教えてください。

愛奈さん——衣装のひだの部分で、跳ね上がり表現するために、全部にワイヤーを通してあります。その作業が大変で、本当に苦労しました。あと、ひだ部分にパールを合計2000個手

付けしていて、前日の夜まで作業を行っていました。

広報——愛奈さんがファッションに興味を持ったきっかけを教えてください。

愛奈さん——服に興味を持ち始めたのは小学生時代です。ファッション雑誌を読むのが好きで楽しいと思いました。中学生時代は部活で吹奏楽をやっていたので実は音楽も好きで、高校を決める際にどちらを学ぼうか迷いました。最終的には、より自分が活躍できそうと考えたファッションの道を選びました。

広報——服のデザインや製作をする上で、楽しいところと大変なところを教えてください。

愛奈さん——自分の理想通り形にできたり、新たな発見ができたりするところが楽しいです。大変なところは創作服という性質上、手探りでしか作れないところ。デザイン画が上手く描けても、実際に服を作ってみたら重くなりすぎてやり直しということも少なくありません。

広報——目標としているファッションデザイナーやモデルの方がいれば教えてください。

ルの方がいれば教えてください。
愛奈さん——世界で活躍しているデザイナーさんには、すごくあこがれます。日本人だと森英恵さんはすごいと思います。シャネルの創業者のココ・シャネルさんも、自分から道を切り開いていくところにあこがれます。
広報——最後に将来の目標を教えてください。

愛奈さん——多くのハイブランドでは、実力のあるフリーランスのデザイナーが活躍しているみたいなので、私も人から求められるような実力のあるファッションデザイナーになりたいです。

